

韓 国 語

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

6回目となる平成 19 年度大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）「韓国語」の受験者数は、186 名であった。第 1 回目は 99 名で、年々受験者数は増加し 4 回目は 213 名だったが、今年度は減少に転じた。少子化の影響、そして昨今の社会情勢により民族学校の生徒自体が少なくなってきたことを考えると、今後も韓国語の受験者数の増加は期待できないかもしれない。また、平均点は 147.6 点（73.8 点）で、一昨年に続き下がった。これは難易度が若干上がったことに因るものと思われる。しかし、相変わらず 150 点以上の得点者が受験者の 5 割が占めているところを見ると、今年度も受験者の大多数が韓国語母語話者若しくはそれに近い状況の受験者であったと推測できる。

本年度の試験問題を評価するにあたって、本委員会は以下の視点・観点で評価を行った。

- (1) 各問題が受験者の授業学習範囲内で出題されているかどうか。この目安としてハングル能力検定 3 級～準 2 級程度を適切な語い・文法の難易度とし、各問題をハングル能力検定のどの級に該当するかを（ ）書きで明記した。ただし、今年度よりハングル能力検定のレベルがかなり上がっていることを考慮しなければならない。
- (2) 語い力を問う知識問題だけでなく、思考力もみる総合的な学力を問う問題が多く出題されているかどうか。
- (3) 学校で行われている教育内容を反映し、学習者の年代に相応しい場面設定で相応しい表現が使われているかどうか。

2 試験問題の内容・範囲等

第 1 問

A 表記と発音に関する問題

各音節の終声と後に続く初声との結合で音がどう変化するか、その知識を問う問題。見出し語の発音と同じ発音現象を起こすものが 4 つの選択肢の中にいくつあるかを選ぶ。この設問形式より、一つ一つの発音現象を学習者に確認させるような設問にしていただきたい。また、どの単語も学習者には難しい単語であるため正答率は低い。全体の語いレベルを下げていただきたい。

見出し語 코патчимの後に続く子音の有声音化。

語い : 길잡이(2 級)

a [濃音化] (準 2 級) b [濃音化] (準 2 級) c [有声音化] (準 2 級) d [濃音化] (2 級)

B つづり字と発音を問う問題

патчимの激音化と鼻音化に関する基本的な問題。良問。

語い : 옷, 하고 / 적년 (5 級)

C 文の意味を考え、正しい韓国語表記であるものを選ぶ問題。今回新しい設問形式で非常に良い。

- ① 식히다(2級以上) ② 만드시(4級) ③ 있다(5級) / ~다가(準2級)
④ 늘이다(準2級)

D 韓国語の漢字語の読みに関する問題。

漢字語学習は語い力を高める上で重要な学習方法である。ただし、出題される漢字語は学習語いの範囲内か使用する頻度の高い語であることが望ましい。単語の中には非常に語いレベルが高いものがあり(問2, 3のc)、正答率は低い。もう少し語いレベルを下げてください。

- 問1 a 携帯 [휴대] (3級) b 契約 [계약] (準2級) c 掲示 [게시] (2級)
問2 a 照明 [조명] (準2級) b 焦点 [초점] (準2級) c 肖像 [초상] (2級)
問3 a 生活 [생활] (4級) b 分割 [분할] (準2級) c 枯渴 [고갈] (2級)

第2問

A 用言活用の知識を問う問題。設問形式は昨年と同じ。

- 問1 ㄷ変格活用を問う基本的な問題であるが、意外に正答率は低い。語い：줍다 (準2級)
問2 ㄹ変則を学習していれば解答可能な基本的な問題で、良問。語い：살다 (準2級)

B 与えられた用言の活用を問う問題。単語だけを出題するのではなく、文章中で活用変化を問う設問形式にしていきたい。

- 問1 구르다, 푸다가それぞれㄹ変格活用, 우変格活用とわかれば解答可能な問題。ただ、우変格活用は푸다の1語のみで、学習現場にはあまり出てこない語いなので、良問とは言い難い。語い：구르다/푸다 (準2級)
問2 벗다, 쓴다는規則活用動詞で、ㄹ変格活用やㄷ変格活用ではないと正しい知識を問う。良問。語い：벗다/쓴다 (3級)

C 適切な助詞、語尾、語いを選択する問題。昨年より問題数が1つ多くなっている。

- 問1 「～(金額)に値する」にあたる接尾辞を選ぶ。基本的な問題で良問。語い：짜리 (準2級)
問2 思考力と語い力を問う問題で良問。語い：셈 (準2級)
問3 場所と選択を表す助詞の連結を選ぶ。良問。語い：～에서 (5級) /～나 (3級)
問4 「時計が止まる」の「止まる」の知識を問う。良問とは言い難い。語い：서다 (5級)
問5 思考力、語い力問題。참다 못해「たまりかねて」を選ぶ。良問。語い：참다 못해 (3級)
問6 語い力問題。어이가 없어서 (あきれて) を選ぶ。良問。語い：어이 없다 (準2級)
問7 思考力、文法問題。間接話法の形を選ぶ。やや難しい。表現：～ㄴ/는다 싶다 (3級)

D 下線部の意味に最も近いものを選ぶ問題。語い力、思考力、文法力を問う。

問1 ~는 대로 (~したらすぐ) の知識を問う基本問題。良問。

語い：~대로 (3級) /마로 (4級)

問2 問題としては良いが、넉넉하지 못한 /넉넉치 못한ではなく、넉넉지 못한という表記は疑問である。文法説明をつけられないものであり、ネイティブの中にはその表記をおかしいと思う人もいる。学習者に問題文として表記すべきではないと思う。

語い：넉넉하다 (準2級)

問3 대충(おおまかに)/적당히(適当に)の知識を問う。思考力も問われる良問。正答率が低いのは대개(大体)と間違った生徒が多かったものと推測される。

語い：대충 (準2級) /적당히 (3級)

問4 어차피 (どうせ) /결국(結局)を問う基本的な問題で良問。

語い：어차피 (準2級) /결국 (3級)

問5 해가 지다/ 저물다 (日が暮れる) を問う。良問。語い：지다 (3級) /저물다 (2級)

E 日本語から韓国語への翻訳。語い、文法力、表現力を問う。昨年より問題数が1つ減っている。

問1 「取る」を韓国語に直訳せず、韓国語での表現力を問う。良問。語い：가지다 (5級)

問2 몸조리(養生)を知っていれば解答可能な問題。ただ、語いレベルが高いことと몸조심(体の用心)と混同したためか正答率は低い。

語い：몸조리 (2級)

問3 입히다(着せる)と ~아/어 주다(~してあげる)がわかっているならば解答可能な問題で良問。

語い：입히다(準2級) / ~아/어 주다 (4級)

問4 손을 떼다 (手を引く) を知っているかを問う。良問。

語い：떼다 (3級)

第3問 対話文を読み、問いに答える問題。語い、文法、読解など総合的な力を試す。

A 短い対話文を読み、空欄に適切な文を挿入させる。昨年より問題数が1つ減っている。

問1 「卒業後何がしたい？」という質問に対する答えを問う。良問。

文章全体：4級～3級程度

問2 「子供が泣く・・・」「そうではないでしょう。ミルクを十分飲んだから。」という流れに合う文を空所に入れさせる問題。올다のㄷ語幹変格活用の知識を問う。良問。

文章全体：5級～3級程度

問3 「ご招待ありがとうございます。」「とんでもありません。食卓の足が折れそうです。」という話の流れに合う文を空所に入れさせる問題。良問。

文章全体：3級～準2級程度

問4 「放送局に入るのは難しい」「それでも一度挑戦してみるのはいんじゃない？」という話の流れに合う文を空所に入れさせる問題。韓国のことわざを問う良問。

文章全体：3級～2級程度

問5 「最近私に会うのが難しいと・・・」「ここ数週間出張がしばしば・・・」という流れから問に入る文を選ばせる問題。良問。

文章全体：3級～2級程度

B 少し長めの対話文を読み、内容に合う答えを選ぶ。位置関係を表す語いの知識を問う。今年絵が用いられ、視覚的に考えさせている点が非常に良い。 文章全体：3級程度

C 長めの対話文を読み、空欄に適する表現を挿入して対話文を完成させる問題と今年本文中の下線部の内容を問う問題が増えている。昨年より問題文の量は8行長く、問題数も2つ多くなっている。茶髪やピアスをする最近の若者に対して、2人が意見を交わす場面である。

問1 後文に「耳をあげる男子も」とあることから正答が導き出せる。良問。

文章全体：3級程度

問2 後文に、「若い世代が新しい感覚を追求しなくなれば、社会の雰囲気沈む。」とあることから、Bが否定的でないことがわかり、正答を導き出せる。良問。

文章全体：3級～準2級程度

問3 「それはそうだけど、まだ・・・」と話していることと、아직은 の後には否定形がくることがわかれば正答が導き出せる。良問。

文章全体：4級程度

問4 後文の「見かけだけで判断してはいけない」で正答がわかる。 文章全体：3級程度

問5 「そのこと」とは、その前にBが言った内容だということがわかれば、正答が導き出せる。 文章全体：3級～2級程度

第4問 長文読解問題

日常生活の中で私たちが無意識に行っている物事の背景には、一定の社会的な規則があり、それが文化であると述べた評論文。文章表現の中でよく使用される「맥락(脈絡)」ということばを、ここでは社会における物事の流れや背景という概念で使用し、抽象度がより高められているが、例示された具体例が子供の「めんこ」遊びやみかんという身近なものなので難易度が下がったと思われる。

問題文の量は昨年度27行から23行、語い数(語尾・助詞を除く)192語から171語へと1割強減少している。これは昨年度が一昨年度に比べて、文章量17行→27行、語い数119語→192語と、6割強の大幅な増加があったため、本年度は若干の調整が行われたように思われる。

◇第4問の語い(助詞及び語尾を除く)レベル(『ハングル』検定公式ガイド)より)

レベル	5級程度	4級程度	3級程度	準2級程度	2級以上
語い数	62個	45個	57個	15個	7個
割合(%)	33.4%	24.2%	30.7%	8.1%	3.8%

問1 文中の2箇所に入る同じ接続詞を問う問題。ヒントが2箇所あり正答率は高くなったが、文の前後関係をしっかり把握する必要があるので良問と言える。

語い：어찌다가(3級)/ 그러므로(3級)/ 그러나(5級)/ 왜냐하면(3級)

問2 質問となる文の後に理由を述べる文が続いているので容易であるが、誤答例に難易度の高い語いを含む。 語い：불과하다(準2級)

問3 露店のみかんが自分の懐に入る事象は、「売買」と「盗み」という二つの相対する事象になることを考えさせる問題で、より深い思考力を求める良問といえる。正答率が低いのは、

④돈벌이가紛らわしいせいか。

語い：도둑질(準2級)/ 돈벌이(3級)

問4 通常文章の中で使用される「脈絡」という言葉に別の概念を持たせて使用し、その正確な意味を問う問題。難易度は高いが、選択肢が日本語で出題されているため正答率が高くなったと考えられる。誤答例にもう少し工夫が必要である。

語い：맥락(2級以上)

問5 全文の大意を問う問題。昨年度は選択肢が日本語で示されていたが、本年度は韓国語で示されているのでやや難易度が高くなったが、誤答の選択肢②③⑤はそれに関わる内容や表現が、問題文中に出てこないもので明らかに間違いと消去できる。誤答例の工夫が必要である。

本文の文章全体：3級程度

第5問 長文読解問題

悩み苦しんでばかりいる時期が、決して時間の浪費ではなく、悩み苦しみにぬいた時期があったからこそ人生の真実を知ることができたという筆者の経験に基づいて、人生においてどんなに無意味に思われる時間でも実は貴重で無意味ではないということを述べているエッセイ。受験者の共感を得やすく、内容的に良問といえる。

問題文の量は昨年度37行から34行に、語い数245語から257語になっていて、ほぼ同じ量である。

◇第5問の語い(助詞及び語尾を除く)レベル(『ハングル』検定公式ガイド)より)

レベル	5級程度	4級程度	3級程度	準2級程度	2級以上
語い数	75個	62個	76個	28個	10個
割合(%)	29.9%	24.7%	30.3%	11.2%	4.0%

問1 文中に入る接続詞を問う問題で、文の前後をよく理解する必要がある。紛らわしい接続詞もあるが良問。語い：그랬더니(準2級)/ 그렇다고(4級)/ 그러다가(3級)/ 그러면(4級)

問2 「어림도 없는 일이었다」は難易度の高い語いであるが、前後の文脈から推測が可能であり、日本語の選択肢が与えられているので正答を導きやすい。良問といえる。

語い：어림없다(2級)

問3 「그렇게 생각하면」が直前の段落のどの部分をさしているのかを問う問題。誤答例の①②④ともに、本問題文の内容や表現と関連があり良問と言える。

語い：나름대로(準2級)/ 헤매다(準2級)

問4 文中の2箇所と同じ助詞を入れる問題。ヒントが2箇所あり正答率は高くなったが、文の前後関係をしっかり把握する必要があり、良問と言える。

語い：-야(3級)/ 직전(準2級)/ 드디어(3級)

問5 文中の最も適切な箇所に1文を挿入する問題。文全体の流れ、段落ごとの展開の仕方を理解していないと解けない。難問であるが良問といえる。

語い：-게 마련이다(準2級) / -기가 보다(3級)

問6 全文の大意を問う問題。選択肢①④の誤答例は、本文中に関わりのある内容・表現が出てくるが、②⑤の誤答例はそれに関わる内容や表現が、文中に出てこないもので明らかに間違いと消去できる。誤答例の工夫が必要である。

語い：전념(2級以上)/ 제대로(3級)/ 조언(2級以上)/ 덕(3級)

3 試験問題の程度、設問数、形式等

昨年ハングル能力検定の語い基準が従来より質量ともに大幅にレベルアップしたため、本年度の試験問題の程度をハングル能力検定を基準に、昨年度と比較できなくなっている。しかし来年度への参考として新しいハングル能力検定の語いレベルと、本年度センター試験の語いレベルを調べてみた。

***ハングル能力検定の各級別の出題語い数(『ハングル』検定公式ガイド)より)**

1級・・・制限なし、2級・・・15,000語～16,000語、準2級・・・約7,000語、3級・・・約3,000語、4級・・・約950語、5級・・・約450語

本年度の試験問題の語いレベル

ハングル能力検定	5級程度	4級程度	3級程度	準2級程度	2级以上
平成19年度	152個	131個	174個	84個	36個

3級レベルの語いが一番多いが、ハングル能力検定の語いレベルの難易度が非常に高くなっており、準2級以上の語いも2割以上含まれていることを考えると、かなり難易度の高い問題と言える。

設問数に関しては、全体で昨年度より2問増えており、形式についても昨年度より工夫がみられた。

また配点に関しては、昨年度は発音問題が各3点で配点が低く、やや長めの会話文及び長文読解問題が各5点と高配点であったが、本年度はすべての設問が同じ配点となっている。発音問題の正答率が低いこと、長文問題の正答率が高いことから平均点を抑えるための対策と考えられ、やむをえないところもあるが、やはり問題のレベルにあった細やかな設問形式と配点が望ましい。

4 作成部会への要望

- (1) 第1問の設問形式についてはやはり、質問と答えが直接対応するような形の設問が望ましい。
- (2) 漢字音・発音に関する出題は望ましいが、現在、高等学校で授業を受けている生徒も解けるようなレベルの問題をもう少し多く出題してほしい。
- (3) 設問形式と配点に関する要望は上記3を参照されたい。
- (4) 全体的に語いのレベルが高く、特に文末の語尾の難易度が高く、ほとんどの高等学校の授業で扱っていないものがほとんどである。

『ドイツ語』及び『フランス語』に関する高等学校学習指導要領の内容に準拠した内容とは、「韓国語」では、具体的にどのような内容で、どのような文法事項や語法、語いを扱うべきなのかを至急に示してほしい。昨年度までと同様、韓国朝鮮語の授業を実施している全国9割以上の学校では、対応できない難易度の高い内容になっていることを改めて実感している。